

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

経営の基本方針

イーサリアム及びその関連技術の中核とする技術・サービス提供及びデジタル資産戦略を推進し、持続的な企業価値及び株主価値の向上を図る

ETH取得量
20ETH

② 中長期の経営戦略

1. ブロックチェーン開発事業

イーサリアム関連技術を基盤とした開発支援・コンサルティングによる収益基盤の構築。エンジニア稼働率は高水準で推移

3. グループ再編・資産回復

事業基盤回復に向けたグループ再編・資産回復の取組及び暗号資産交換業を含む周辺事業の再構築を段階的に推進

2. デジタルアセット事業

イーサリアム(ETH)を中核とするデジタルアセットトレジャリー(DAT)事業の推進による財務基盤強化と安定的な収益基盤構築

4. プライバシー技術強化

2025年11月27日、INTMAX提携によりイーサリアム上のプライバシー重視レイヤー2関連技術を導入、プライバシー技術力を強化

③ 対処すべき課題

① 子会社経営支配権喪失

- ・全事業子会社の実質的な経営支配権喪失。子会社Zaifをはじめとした重要資産が流出
- ・旧経営陣による代物弁済等不適正な取引により複数の子会社・資産が流出
- ・流出資産の回収及び経営支配権の奪還が事業上の重要課題

② ガバナンス体制の再構築

- ・企業風土及びコーポレート・ガバナンスの見直しを含む再発防止策の推進
- ・意思決定及び管理体制の実効性向上。適時適切な情報開示と説明責任の徹底
- ・ガバナンス実効性の高度化を通じた信頼回復

③ 事業・財務基盤の回復

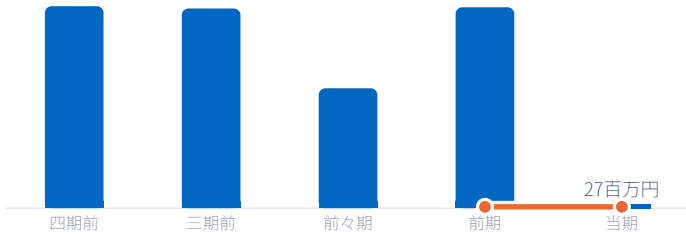
- ・財務基盤及び事業基盤が毀損している状況を踏まえた立て直し
- ・数値目標及び年間計画は暗号資産トレジャリー事業の資金調達進捗や市場環境により変動。現時点では策定中
- ・法的対応を継続し事業基盤及び財務基盤の回復に直結する課題に対処

面接で使えるポイント

- ・イーサリアムを金融インフラのスタンダードと位置づけ、ブロックチェーン技術による金融領域の革新を事業機会として捉える
- ・2024年1月ビットコイン現物ETF上場、7月イーサリアム現物ETF開始など米国での市場拡大とBlackRock・Fra…
- ・東京証券取引所2025年1月5日大発表会で片山さつき財務相が『デジタル資産が日本の成長戦略の核』と示唆。

証券コード 2345

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
27百万円営業利益率
▲1844.3%財務健康度
40点 / 100点

将来性 雨 / 就活偏差値 40.0（当サイト算出の参考指標）

平均年収
600万円

情報・通信業内 411位/592社

平均年齢
34.0歳

情報・通信業内 514位/593社

平均勤続
1.0年

情報・通信業内 593位/593社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース一言

